

ホームホスピスの仲間たちの報告から

暮らしの中で “死にゆく”こと



2012年

11月23日

第I部

■日時 平成24年11月23日(金) 13:00~16:00

■場所 熊本保健科学大学 50周年記念館
(熊本県熊本市北区和泉町 325 tel 096-275-2111)

■参加費 無料

I

13:00-13:50

基調講演

「自然死」のすすめ

中村 仁一

講師略歴 中村仁一 社会福祉法人・老人ホーム「同和園」附属診療所所長。

1940年、長野県生れ。京都大学医学部卒業後、財団法人高雄病院院長・理事長を経て、2011年2月より現職。1992年、「同治医学研究所」を設立。有料で「生き方相談」、「健康相談」を行う。1996年4月より、市民グループ「自分の死を考える集い」を主宰し、京都市内にて例会を開催。主な著書 『老いと死から逃げない生き方』(講談社)、『幸せな臨終—「医者」の手にかかって死にたい死に方』(講談社)、『大往生したけりゃ医療とかかわるな』(幻冬社)

II

14:00-16:00

シンポジウム

暮らしの中で“死にゆく”こと

ホームホスピスの活動

パネリスト

唐澤 剛 (厚生労働省 政策統括官(社会保障担当))、高橋 紘士 (国際医療福祉大学大学院教授)
木下 昌子 (ホームホスピス「われもこう」入居者家族)
(ホームホスピスの仲間たち)

市原 美穂 (宮崎県宮崎市)、兼行 栄子 (兵庫県尼崎市)、竹熊 千晶 (熊本県熊本市)、
松本京子 (兵庫県神戸市)、樋口千恵子 (福岡県久留米市)

コメンテーター・中村 仁一 (「同和園」附属診療所所長)

コーディネーター・大熊由紀子 (国際医療福祉大学大学院教授・「えにし」ネット代表)

主催 NPO法人 老いと病いの文化研究所われもこう

共催 公益財団法人日本生命財団

後援 ホームホスピス推進委員会・熊本県・熊本市・熊本日日新聞社
熊本県看護協会・熊本生と死を考える会・熊本保健科学大学

問合せ ホームホスピスわれもこう TEL096-329-7833 fax096-329-7877



Nakamura Jinichi

「年寄りの最後の大事な役割は、できるだけ自然に死んでみせること」
そうおっしゃる中村仁一医師は、高齢多死社会を生きる私達の水先案内人です。
人生の最後の時を、できるだけ穏やかに生きて、自然に向こう岸に着く……。
ホームホスピスは、日々の暮らしの中でその水路を守りたいと願っています。

パネリスト紹介



大熊由紀子 (Ookuma Yukiko)

東京大学教養学部で科学史・科学哲学を専攻。卒業後朝日新聞社に入社。社会部記者、科学部記者、科学部次長等を経て、1984年、同社で女性初の論説委員になり、医療、福祉、科学分野の社説を17年間担当。2001年から3年間大阪大学大学院人間科学研究科教授（ソーシャルサービス論）、2004年より国際医療福祉大学大学院教授。

唐澤 剛 (Karasawa Tsuyoshi)

昭和31年長野県生。早稲田大学政治経済学部卒業。昭和55年厚生省に入省。平成9年、介護保険制度準備室次長に就任。16年、保険局国民健康保険課長、18年、保険局総務課長、20年、大臣官房人事課長、21年、大臣官房審議官（医療保険・医政・医療介護連携担当）、平成23年3月～同年9月まで厚生労働省災害対策本部事務局次長、平成24年9月より現職。



高橋 紘士 (Takahashi Hiroshi)

国際医療福祉大学大学院教授。(財)高齢者住宅財団理事長を兼務。ホームホスピスとの出会いは、NHK宮崎が制作したドキュメンタリー番組でのコメンテーターをつとめて以来、地域ケアの新しい形として高く評価する。編著「地域包括ケアシステム」(オーム社 ホームホスピス宮崎の紹介が収録)他、著書多数。

木下 昌子 (Kinoshita Masako)

われもこう第一号入居、木下和夫氏の妻（79歳）。脳外科医であった夫を支えるかたわら、熊本子ども劇場の初代運営委員長を務める。和夫氏9か月の入院期間を経て、退院後の行く先としてわれもこうへ。われもこう入居者家族代表。



市原 美穂 (Ichihara Miho)

NPOホームホスピス宮崎理事長。1998年「宮崎をホスピスに」を合言葉にホームホスピス宮崎設立に参画。2004年に、宮崎市内の空家になった民家を借りて、ホームホスピス「かあさんの家 曾師」を開設し、2011年までに宮崎市内4カ所に展開。著書『ホームホスピスカあさんの家の作り方』（木星舎）

兼行 栄子 (Kaneyuki Eiko)

1994年、最期まで暮らせる地域を目指して、互助組織「愛逢くらぶ」の立ち上げに参画し、コーディネーターとして関わり、ニーズに添ったサービスを創りあげた。2004年法人格NPOを取得、NOO法人愛逢へ発展的解消する。2006年～「生と死」をテーマに市民講座を開始。2009年ホームホスピス「愛逢の家」設立。



竹熊 千晶 (Takekuma Chiaki)

NPO老いと病いの文化研究所ホームホスピスわれもこう代表。熊本保健科学大学教授。われもこうは「我れもこうありたい」「私も紅い花ですよ」という意味で名づけられた山野に咲く花です。ここで、一人ひとりの命が、その人の生活の中で最期まで大事にされることを願って始めました。入居者のご家族に支えられて、3年目が過ぎようとしています。今、2軒目の「もうひとつの家」を準備中です。

樋口千恵子 (Higuchi Chieko)

たんがくの家は、久留米で産声をあげ、もうすぐ2歳です。たんがくの家では、入居者の方、ご家族、地域の方などで「あー！あんたがおってくれてよかった！」とお互いの存在を認め合い生き抜くことを頑張る力が、相互に湧き上がるようなコミュニティづくりや「ここ、なんか、ほっとするよね！」と言っただけのようなこころ穏やかな環境づくりに努めています。



松本 京子 (Matsumoyo Kyoko)

阪神淡路大震災まで神戸市立西市民病院勤務。避難所の支援活動を経験した後に在宅看護の道にすすむ。1997年、神戸市北区で聖隷福祉事業団 訪問看護ステーション開設。2008年、(株)なごみ設立と同時に訪問看護ステーションあさんて開設。2011年、NPO法人「神戸なごみの家」とする。2012年、日本福祉大学大学院社会福祉学研究科にて修士課程修了。修士論文「ホームホスピスにおけるケアの内実」

会場への交通アクセス

JR利用の場合・・・鹿児島本線「西里駅前」下車（熊本駅より所要時間15分）

熊本交通センター・・・23番のりば「上熊本・西里」経由バスで「西里駅前」下車（バス停から徒歩4分）

熊本空港の場合・・・リムジンバス乗車「熊本駅前」下車（所要時間60分）。熊本駅よりJR鹿児島本線より利用。

自家用車の場合・・・県道303四方寄熊本線（旧3号線）から県道332小天下硯川線をフードパル方向へ。